

ど の し た 淵

【ごみ拾い&清掃活動】

7月17日(日)は、青少年ふるさと美化活動及び公民館及び周辺清掃活動に多くの公民会員に参加いただきました。早朝からそして暑い中、作業していただいた皆さん大変ご苦勞様でした。17日前後にも誰かが『どのした淵』沿岸の樹木・カズラの伐採・除去をしてくれたみたいで、広々とした潤いと安らぎの空間が広がっています。『出来る人が・出来る時に・出来る事を・出来る範囲で』の実践活動に感謝いたします。

また、墓地駐車場横の竹やぶがズンダしてきてるのを切り落としてくれた方もいらっしゃいます。常日頃車で通るたびに気になり、除去しないと交通の支障になるな~と思っていたら、誰かが率先してやってくれました。有難い事です。お盆前に墓地周辺もコザッパイとしたいなと思っはいるのですが・・・。



発行責任者

高峯公民会長

三 腰 善 行

090-1089-9432

令和4年8月1日発行

【バックラフト&サップ体験会】

17日(日)は、青少年育成行事もやりました。泊野・白男川育成会合同でのサップ&バックラフト体験会です。数日前の雨で濁り・増水が懸念されましたが、何のことはない澄み切ったきらら川でたっぷり自然体験が出来ました。

今年は薩摩のB&Gからメガサップ1台とサップ3台を借り、きららの楽校からバックラフト5台を久徳君が持ってきてくれました。

また、16日から3人がどのした淵でキャンプして、17日の清掃作業にも参加してくれました。若手の労力が足りない中、とても助かりました。

更に24日(日)には、中津川親子会約30人がバックラフト体験で来てくれました。

この夏多くの子供たちが『どのした淵』を楽しんでくれたらいいな。



たかね寺小屋〜持続可能な地域づくり〜

【5Rって何?】part ②

①リデュース ②リユース ③リペア
④リターン ⑤リサイクルの5つの単語の頭文字です。それぞれの単語の意味、実践行動について学習しましょう。

②リユース・使い捨てせずにそのままの形状で何度も使うこと。

◇不要になったもので、まだ使えるものはフリーマーケットやリサイクルショップを利用し有効活用する。

◇リターナブルびんや詰め替え商品を選べるべく選ぶ。

③リペア・修理・修繕しながら物を大切に使うこと。

◇電池駆動の製品は、電池交換をして使い続ける。

◇壊れた物でも、買い替えるのではなく修理して長く使う。

◇洋服等が破れたときは、宛て布などでリメイクしてもう一度使う。

ごみの発生抑制と資源の有効利用を進め、環境への負荷が少ない環境循環の実現に繋げるため5Rに取り組みましょう。

【活性化のぼり旗設置】

令和4年度活性化委員会文化民生部会事業第一弾『活性化のぼり旗』を7月10日（日）に設置しました。当公民会関係分は現王様の腰掛石・椿峠・どのした淵です。（腰掛石分は石移設後設置します）

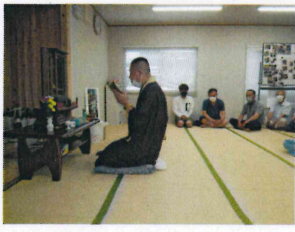
どのした淵入口にはキャンピングテーブルも設置し雰囲気を出してみました。この夏、多くの子どもたちが『どのした淵』でみっじゃびいを楽しみ、事故無く自然を満喫してほしいです。海水浴があるなら川水浴があってもいいじゃないか!?

川水浴・水遊び・みっじゃびい



【五月供養開催】

7月3日（日）ほとんどの公民会員の皆さんに参加いただき、五月供養のお勤めをして頂きました。懇親会にも全員参加くださりありがとうございました。



【人権の花・ひまわり植えました】



衛生自治団体連合会（衛自連）の環境施設整備事業助成金を活用し、10個のプランターにひまわりを植えて、公民館の擁壁ブロック上に設置しました。皆さんご存知のとおり、ひまわりの花は人権の花としても知られています。

先に子供会でペイントした倉庫にもひまわりが描かれており、関連して人権尊重の村づくりにも寄与出来たらと思います。



豆知恵袋

ひまわりの花が人権の花に選ばれた理由は、花言葉が「あなただけ見つめている」「あなたは素晴らしい」であり、「人権」のイメージに合うことや、子どもたちの心身の成長が、太陽に向かって成長するひまわりと合致するからです。

8月26日（木）には人権フェスティバルが宮之城文化センターで開催される予定です。講演会や児童・生徒の人権作文の朗読などは傾聴の価値ありですよ。お時間のとれる方はぜひ御参加いただき、人権意識の高揚に努めてください。

編集後記「田の神やあつむとつむ」

7月6日～8日にかけて滋賀県大津市の全国市町村国際文化研修所（J-IAM）で『関係人口の創出・拡大』の研修がありました。全国各地（16市町村19人）が参加していて、関係人口とは何か！各地の実践事例を拝聴し、とても良い学びになりました。人口といっても様々なカウントの仕方があります。そんな中、今注目を集めているのが関係人口です。少子高齢化の中において、人口増対策はほとんどの自治体の喫緊の課題です。自然増が望めない中において、他市町村からの流入を増やすのは人の取り合いになるだけです。単に住民登録者数を増やすだけの対策ではなく、その町の人・自然・物産等あらゆる事柄に深い関係性を持ち、その町のファンになり、なが～い付き合いが出来る人々を増やすことが関係人口という考え方のようです。この関係性の延長線上には定住という選択も出てきます。今後、一過性の人口増・住民登録者数という捉え方だけではなく、惚れられる街づくり・地域づくりが求められてくるのです。さつま町には関係人口に繋がられるネタは沢山あると思います。ただ、それぞれが単独で活動・作用するのではもったいないので、有機的なつながりを造成する必要があるのでは!!

泊野も関係人口に繋がる人々との濃ゆい関係性を紡いでいかないと。たけのこ堀りツアーは全くそのテイなんだけどな。ツアーから先のつながりをどう構築するか、一歩踏み込んだ関係性をどう創り上げていくかが重要なんだよね。因みにこの研修には他県の若い議員さん3人も自費で参加されていました。関心・関心……!